

## 平成30年度第1回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

### 1 開催日時・場所

平成30年7月3日（火曜日）午後4時から午後5時45分まで  
東京都健康安全研究センター 本館6階会議室

### 2 議事及び報告事項

#### (1) 議事：事例の検討について

平成29年12月1日から平成30年5月31日までの間に都医師会を通じて収集した3事例のうち※2事例（皮膚症状2例）について検討を行った。

※1事例は被害発生日が古く、情報が曖昧であったため検討課題としなかった。

2事例の検討の結果、積極的に情報収集するよう努めるものとされた1事例について、都医師会、都薬剤師会を通じて類似事例の収集への協力を依頼した。

なお、1事例（皮膚症状1例）については、事例として蓄積していくという結論になった。

今回の事例について事前に精査した結果、緊急調査等が必要な事例は無かった。

#### (2) 議事：「健康食品」による健康被害事例専門委員会の規定改正について

次の事項について審議した。

- ・東京都消費生活総合センターが受け付けた健康食品に関する危害の相談についての情報のうち、東京都消費生活総合センターから分析及び評価の依頼を受けたものについて本専門委員会の検討事例とするよう、事務局から規定改正の提案を行い、了承された。

#### (3) 報告：東京都医師会及び東京都薬剤師会への協力依頼について（平成29年度第2回「健康食品」による健康被害事例専門委員会終了後の資料送付）

次の事項について報告した。

- ・昨年度第2回当専門委員会での検討結果（積極的に情報収集に努めるものとされた2事例（肝機能悪化等1例、頭痛1例）、情報提供すべきとされた2事例（背部全体に発赤疹1例、原疾患の悪化等1例）について、都医師会、都薬剤師会を通じて留意すべき関連情報も含めて情報提供するとともに、類似事例への収集への協力を依頼したこと）を報告した旨。

#### (4) 報告：収集事例の集計結果について

平成18年7月1日から平成30年5月31日までに収集した361事例の集計結果について報告した。

なお、製品と症状との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

#### ア 収集事例の内訳

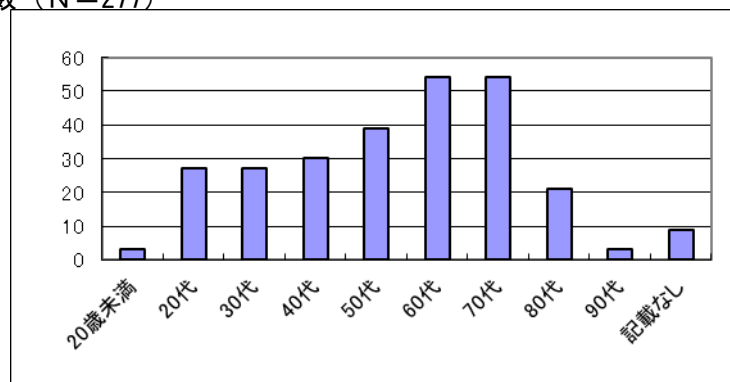
医師会	164人	延べ	237製品
薬剤師会	113人	延べ	124製品
計	277人	延べ	361製品

#### イ 年齢別人数分布

年齢	患者数	利用目的の主な内訳 (その他・不明・記載なしを除く)
20歳未満	3	健康維持・増進・栄養補給2、ダイエット1
20代	28	健康維持・増進・栄養補給3、ダイエット15、バスタップ2、美肌2、強精1
30代	28	健康維持・増進・栄養補給6、ダイエット12、美肌4、血液をさらさらに1
40代	32	健康維持・増進・栄養補給7、ダイエット10、関節痛(ひざなど)1、美肌2、強精1、ドライアイ1、排尿障害1
50代	39	健康維持・増進・栄養補給18、ダイエット5、関節痛(ひざなど)8、美肌4、癌予防1
60代	56	健康維持・増進・栄養補給15、ダイエット5、関節痛(ひざなど)14、血液をさらさらに3、美肌1、強壮1
70代	57	健康維持・増進・栄養補給18、ダイエット1、関節痛(ひざなど)18、血液をさらさらに3、美肌1、頻漏尿改善1、血圧改善1
80代	21	健康維持・増進・栄養補給7、ダイエット1、関節痛(ひざなど)9、血液をさらさらに1、美肌1、味覚異常1、血糖値改善1
90代	3	関節痛(ひざなど)1
記載なし	10	健康維持・増進・栄養補給1、ダイエット2
合計	277	健康維持・増進・栄養補給74、ダイエット51、関節痛(ひざなど)49

ダイエット・美容は20～40代、健康維持・増進・栄養補給は50代以上が多い。

人数 (N=277)



年齢別人数分布によると、50～70代が多い。

## ウ 性別割合

性別割合によると、女性（205人、74%）は、男性（68人、25%）の約3倍であった。（4名は記載なし）

## エ 基礎疾患の有無

基礎疾患については、有（158人、57%）、無（79人、29%）、記載なし（40人、14%）であった。

## オ 症状・異常所見等

症状・異常所見等	患者数
発疹・発赤・掻痒	101
肝機能障害、肝機能検査値異常	40
胃痛・胃部不快感・吐き気	33
下痢・軟便	23
出血、出血傾向	10
頭痛・吐気	11
めまい・ふらつき	7
便秘	6
血圧上昇	7
尿酸値の上昇	4
その他	81 <sup>1)</sup>

1) 検査値異常（肝機能検査値・尿酸値を除く）、味覚異常等

※ 複数回答あり

症状・異常所見等で最も多かったものは「発疹・発赤・掻痒」の101名で、全体の36.5%を占めている。次いで「肝機能障害・肝機能検査値異常」が40名（14.4%）、「胃痛・胃部不快感・吐き気」が33名（11.9%）であった。

なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

東京都食品安全情報評価委員会  
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿  
(五十音順・敬称略)

平成 30 年 7 月現在

No.	氏 名	所属
1	○梅垣 敬三	昭和女子大学 食安全マネジメント学科 教授
2	小林 弘幸	公益社団法人東京都医師会 理事
3	千葉 剛	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究部 部長
4	松本 有右	公益社団法人東京都薬剤師会 常務理事
5	水谷 太郎	筑西市 医療監
6	山口 正雄	帝京大学医学部内科学講座 呼吸器・アレルギー学 教授
7	山口 隆司	一般財団法人食品産業センター 振興部・海外室 次長
8	山崎 壮	実践女子大学 生活科学部 食生活科学科 教授

(○) 座長